



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 232

今一度洗濯いたし申し候

「日本を今一度洗濯いたし申し候」と坂本龍馬。人類の洗濯浄化?では14世紀に大流行した「ペスト」がある。皮膚が黒紫色になって死ぬ黒死病は当時の世界人口4億5,000万人の22%、1億人が死亡し、英国やイタリアは人口の8割に上った。北里柴三郎が原因菌を発見してパンデミックは治まる。次の洗濯は、1918年の2年間に「スペイン風邪」で世界人口4分の1の5億人が感染して5,000万人が死に、米国は平均寿命が12歳低下した。2002年の中国発「SARS」など伝染病が人類を周期的に“洗濯浄化”している地球。傲慢になりすぎた人間の振る舞いに神が怒り、正直者のノアとその家族、そして全動物の一対だけを選んで船に乗せ、地球を洪水で人間どもを抹殺浄化した旧約聖書のノアの方舟はこぶねに似ている。

そして今回、中共肺炎・CHINA コロリ VIRUS が迫ってきて、死は他人事ではなくなった。悠長な働き方改革どころではなくなり、明日からの衣食住に先立つ収入を懸命に心配しなくてはいけない“生き方改革”が問われる事態だ。いつ収束するのは神のみぞ知るだが、仮に2年以上も続けば、確実に会社倒産で壊滅的になるだろうし、失業・窮乏・飢餓・騒乱・犯罪・自殺が現実として見えてくる。自己防衛で拳銃を住民が列をなして買い求めている米国のニュースは明日の日本かもしれない。出社しないテレワークや、学校も自宅でパソコン授業に移行し始めたように社会構造の大転換になる。なぜラッシュアワーに都市のオフィス街まで出社しなくてはいけないのか!など、今回の外出禁止令で人々は会社人生の在り方に疑問を持ち始めた価値観の変革。大問題は、通勤形態以前に倒産失業で明日からの人生設計図が未曾有の白紙になってしまうことだ。

フランスの農相が、伝染病騒ぎで失業した労働者に、夏が近づくにつれて労働力の確保が急務となっている農業で働くことを呼びかけたら、即座に20万人以上から応募があったと発表した。農家が例年のように隣国から季節労働者を確保できない国境閉鎖の中で、“農援隊”の結成を呼びかけたのだ。アスパラガス・イチゴ・トマトなど初

夏の作物の収穫期と、畜産業では本格的な繁殖期が迫っている中、機能が停止したら国民の食料危機が始まると警鐘を鳴らした。政府の早い判断と取り組み姿勢は高く評価されている。

日本の食料自給率は、1960年の79%から減り続けて現在は37%に落ちている。自給率が高かった頃は日本とれるコメや野菜を使った食事が中心だったが、輸入に頼る小麦パンや肉料理で食生活が大きく変わって自給率が低下した。工業製品の部品などは安価な労働力を求めて中国に生産基地を大きく移してしまったがゆえに今回みたいに製造供給(サプライチェーン)が停止・分断されると、世界中の工場がストップしてしまう。自動車や家電どころか、釘1本が足りなくなって建築工事が止まり、便器が入手できなくて新築マンションが販売できないなど社会構築基盤の脆弱さが露呈した。日本は、コメはほぼ100%、野菜は79%自給しており、すべての食料が輸入に依存している訳ではないが、自給率37%と低いままだと、世界的有事の際は飛行機も船も止まって輸入品は途絶え、各国は自国優先で保護主義に走り、日本国民の命の綱(ライフライン)は孤立無援になる。第二次世界大戦が起きた大きな要因も、石油など海外からのライフラインが断ち切られたことにあった。

国家の危機管理で食料自給率を上げるには新規就農への支援制度を充実させることだ。農地法を改正して、大手商社などの資本が耕作放棄した田畑や小規模農家と契約して借り上げる大規模農業経営にして、そこの働き手は月給・年休待遇のサラリーマンとして採用するなど就農促進方法はいくらでもある。少人員での省力化&効率化、ロボットやGPSやドローンを駆使したIT、AI先端技術スマート農業は、林業復活も含めて、「若者よ、大自然の大地に向かえ!」の就農ブームになる可能性は大である。Uターンでも、Jターンでもない、オフィスビル街から魅力と夢、可能性の大地に一直線に直行する“I・アイターン!”今こそ、一回こっきりの人生を洗濯いたし申し候の大転換期だ。